

# 身体を通して こころを感じる

—ポストコロナ社会で  
幸せを感じる生き方を探そう

## 講演内容

シンポジウム企画 / コーディネーター 明和 政子

◆ 「身体・脳・心」 **大平 英樹**  
名古屋大学大学院情報学研究所・認知科学専攻 教授

京都大学大学院教育学研究科・教授  
公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団 理事

◆ 「伝統から学ぶ生きる力～型を知ってこそできる型破り」 **佐野 登**  
宝生流能楽師 シテ方

◆ 「ポストコロナ社会での健康キーワード、レジリエンスについて」 **萩原 圭祐**  
大阪大学大学院医学系研究科 先進融合医学共同研究講座 特任教授

◆ 総合討論 進行：明和 政子

## 申込方法

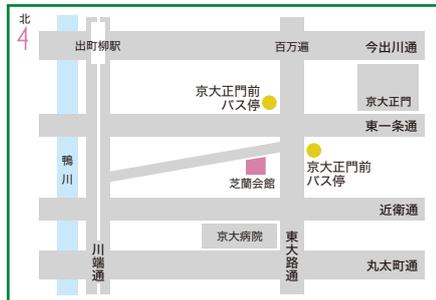
受付開始 **4月20日**～ ※定員になり次第締め切ります。  
氏名（ふりがな）・連絡先を明記の上、Eメール・FAX・  
電話でお申し込みください。

申込先 TEL&FAX：075-212-1854  
E-mail：hitokenkoumirai@jnhf.or.jp  
公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団・事務局

ご来場の際は感染予防対策へのご協力をお願いします。  
<https://www.jnhf.or.jp/>



## アクセス



・京都市バス「京大正門前」下車 徒歩約3分  
・京阪電鉄 出町柳駅下車 徒歩約15分

京都市左京区吉田近衛町 京都大学医学部構内

芝蘭会館・稲盛ホール

7月22日(土)

13:00  
～  
16:30

参加無料

Tel 075-7537531

## 第26回 ひと・健康・未来シンポジウム2023 京都

### 登壇者



コーディネーター  
京都大学 教育学系 教授  
公益財団法人ひと・健康・未来研究財団  
理事

明和 政子

今、サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を融合させ、経済発展と社会的課題解決の両立を図る社会が目指されています。新型コロナウイルスの感染拡大がその流れを加速させました。「身体を通してここを感じる」一心身一如の観点から、ポストコロナ社会で幸せを感じる生き方を模索してみたいと思います。



「身体・脳・心」  
名古屋大学大学院 情報学研究科  
認知科学専攻  
教授

大平 英樹

喜怒哀楽の感情を経験したり、何かを選択したりするとき、私たちは自分の「心」の存在を感じます。心理学では、「心」が立ち上がるためには、脳だけでなく体が重要な役割を担うと考えられています。幸せとは、こうした脳と体の働きがうまく進行している状態だと言えるでしょう。最近の研究知見を紹介しながら、「心」を創る脳と体の働きを考えます。



「伝統から学ぶ生きる力  
～型を知ってこそできる型破り」  
宝生流能楽師 シテ方

佐野 登

私たちは型を習得するために、同じ事を何度も繰り返しながら身につけます。その伝え方は「見て、聞いて、まねる」ことにより学んでいます。型通りの事をしていても心は伝わりません。そのために「してはいけない事」を知り、「やるべき事」を学びます。そうすることで気持ちを伝えることができるのです。



「ポストコロナ社会での  
健康キーワード、  
レジリエンスについて」

大阪大学大学院医学系研究科  
先進融合医学共同研究講座  
特任教授

萩原 圭祐

レジリエンスは、回復力を意味し、新たな健康キーワードとして、うつや様々な病気との関りが注目されています。本講演では、大阪大学と京都大学が共同で開発した日本人向けレジリエンス尺度 Japan Resilience Scale (J-RS) の研究から見えてきた、日本人が本来持っている思いやりや共感性、身体とところのつながりの大切さについてお話したいと思っています。